

# マンツーマンコミッショナー・審判マニュアル

※準備物 黄色の旗・赤色の旗・チェック表・バインダー・筆記用具

- ① 試合にはマンツーマンコミッショナー1人(2人)を、T O(後ろ)に配置する。
- ② 開始10分前には審判及び両チームのコーチにあいさつし、顔つなぎをする。
- ③ ゲームが始まったら両手に旗を持ち、立ってディフェンスの判定を行う。
  - ・旗を振る動作→違反チームにアクションが大切。チェック表はあとで記入する。
- ④ 違反に対しては**黄色(注意)の旗**を大きく振る。(フレーズの終わりにベンチを指す)
  - ・改善された→旗を降ろす。
  - ・改善されない→声かけをする。(ベンチに移動してもよい)
- ⑤ 声かけしても改善の意思が選手、コーチに感じられない場合は**赤色(警告)の旗**を上げる。  
ゲームクロックが止まった際に、審判に伝達し、T O席の前でコミッショナーは、両チームのコーチに内容を簡潔に説明する。(両チームのコーチをT O前に集めるのは審判とする。説明終了後に審判は警告を告げる。副審はタイムアウトではないので、プレイヤーがコートの外に出ないように気をつける。選手はベンチにもどったりコーチと連絡とったりすることはできない。)
- ⑥ 同じチームの2回目以降の**赤色(警告)の旗**に対しては、1回目と同様にゲームクロックが止まった際、審判に伝達し、両チームのコーチに内容を簡潔に説明する。その後、審判によりコーチにテクニカルファールが与えられる。(フリースロー2個、スローイン)
- ⑦ 体力・技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意する。
- ⑧ 悪質な違反行為については、**黄色(注意)の旗**を振らずに赤色(警告)の旗を上げることも可とする。(終了間際やチームディフェンスの特性が原因となる違反等)
- ⑨ 違反行為の数はコミッショナーが管理する。
- ⑩ 審判が赤色(警告)の旗に気付かない場合は、ゲームクロックが止まった際にブザーを鳴らす。
- ⑪ 各ピリオドの終了間際の処置について
  - ・各ピリオド(延長時限を含む)の終了間際に違反行為が生じ、赤色(警告)の旗が上がり、そのままゲームクロックが止まらずに各ピリオドが終了した場合、その警告及び罰則はすべて有効とする。
  - ・1回目の赤色(警告)の旗の場合、ピリオド終了後に審判に伝達し、T O席の前でコミッショナーは、両チームのコーチに内容を簡潔に説明する。説明終了後に審判は警告を告げる。
  - ・2回目以降の赤色(警告)の旗の場合はピリオド終了後、審判によりコーチにテクニカルファールが与えられる。(フリースロー2個)
  - ・インターバルの時間はコーチに警告が与えられた後からはかり始める。
  - ・次のピリオドは、センターラインからのスローインで開始される。この時、ファールの罰則によるスローインなのでスローインが終わってもポゼッションアローの向きは変えない。
- ⑫ 赤色(警告)の旗とタイムアウトが重なった場合はコミッショナーの説明の後にタイムアウトとなる。また、テクニカルファールの場合はタイムアウトの後、フリースローを行い、スローインで再開する。
- ⑬ 赤色(警告)の旗によるテクニカルファールはコーチ自身のファウルとして記録(T)し、チームファウルには数えない。
- ⑭ スローイン時のダブルチームのような現象は、審判がその場で注意することができる。
- ⑮ コミッショナーへのアピールは、審判へのアピールと同等と考える。
- ⑯ コミッショナーと審判はコミュニケーションを取り合う。(試合前、各ピリオドごとに)
- ⑰ マンツーマンディフェンスの基準は、JBAの「マンツーマンディフェンスの基準規則」とする。